

福岡縣 嘉穂郡 箱菜町 大字 大田六

大山カツ

右令

大山勝己

右令

大山茂造

福岡縣 嘉穂郡 箱菜町 平辻

大山ひろ乃

福岡縣 嘉穂郡 箱菜町 大字 大田

共同石炭採業株式會社 社宅

大山秀子

別紙(一)ノリノ 借地目録

字	名	番	地	目	面	積	坪	数
大字	大田	字	箱ノ	ノ	反	積	坪	数
		47		畑	4	23	52坪	
		4805		山林	1	06	216坪	
		72		山林	4	18	692坪	
		76		山林	1	12	222坪	
	計				2	27	929坪	

拓印

委任状

福岡縣嘉穂郡稲築町大字大田字ノジエ

六七番地 畑 八三三

六八五 山 七〇六

七三 山 一六一八

七四 山 七二二

計 三二二九

私儀今般右の地上権設定に付て大山
喜造代を代理人として四筆地を委任

致し且契約金額の受領行を
契約調印する内容にしては異議あり

昭和三十一年九月三十日

福岡縣嘉穂郡福岡町大字下田六

大山カツ

大山勝己

福岡縣嘉穂郡福岡町大字下田

大山ひろの

福岡縣嘉穂郡福岡町大字

共同石炭炭業株式会社

大山秀子

共同石炭炭業株式会社

日吉炭業所 作中

大山喜堂

地上権設定契約取消事項

共同石炭炭業株式会社を甲とし、大山カツ、大山勝己、大山ひろ乃
大山秀子を乙とし、甲乙間に左記の通り地上権設定契約を締結する

記

第一条 乙は其の所有に係る別紙目録記載の土地（以下本件土地
と称す）に甲の放棄権施行のため、地上権を設定する。

第二条 地上権存続期間は昭和二十九年七月一日より昭和三十四
年六月三十日の五ヶ年とする。

第三条 甲が乙に支払ふべき地代は、坪当一ヶ年拾四とし、毎年
末に支払ふ。但契約期間の土地代四萬九千四百五十拾
円については、契約が終了後日吉炭業所に於いて支
払ふ。

32

第三条

甲



第四條 地代算出法は別紙一の二の通りとする。

第五條 第三條の前払地代分については、経済変動の如何に拘らず双方并改訂を要求しない。

第六條 土地に關する公租公課は乙の負担とする。

第七條 甲の事業遂行上、土地にある立木の抜採を必要とする時は乙は之れを取用しなけれはならぬ。

第八條 甲の申入れ期間迄に乙が取用しない場合は、甲が之れを處置するも乙は損害の請求をなす事を得ない。

第九條 但甲乙合意の上之れを甲が引取る場合は、立木の（竹林を含む）種目に従ひ飲業所購入価格を乙に支払ふものとす。

第十條 乙は甲の事業遂行上、乙の使用道路を甲に使用させるものとす。

第十一條 本契約期間中甲は地上権を乙は所有權を双方共に第三者に譲渡しないものとする。

第十二條 本契約消滅のとき地形は消滅當時の現状のまま乙に返還するものとする。

第十三條 七三に係る大山武雄名義の土地を名義変更登記をなす。

第十四條 本件解除事項に従ひ七月十日迄に遅やかに確定の書類を整へ、正式契約をなすものとする。

右契約を証する為この証書二通を作り各自署名捺印し各々一紙を保存する。

昭和二十九年七月一日

東京都中央区銀座七丁目五番地ノ一
共同石炭産權株式会社
代表取締役 入 交 太 嗣
右代理人
福岡県高橋町福岡町大字才田二百二十六番地ノ一
共同石炭産權株式会社日吉支所
代理人 宇 佐 見 敷



福岡縣志穂郡稻葉町大字木田之倉地

大山カソ

右 合

大山勝己

左 合

大山茂造

福岡縣志穂郡稻葉町平辻

大山ハコ

福岡縣志穂郡稻葉町大字木田

共同名義 銘業株交會社 在宛

大山秀子

別紙(一) 1/1 冊 地 目 録

字 名	番 地	地 目	面 積	部	外 敷
大字木田字木ノソユ	47	畑	1 畝 2 歩		53坪
"	4805	山林	" 2 06		216坪
	73	山林	1 畝 1 歩		57坪
	76	山林	" 2 13		222坪
計			2 畝 2 歩		989坪

1/2

〒890000 福岡県志穂郡

〒890000 福岡県志穂郡





明治

18
14

24

各八八

土地賃借契約書

今般共同石炭株式会社日吉鐵礦所才田坑產炭敷地用トシテ
水尾配機ノ土地賃借ニ關シ貸主 大山直古ヲ甲トシ借主日吉
鐵礦所長明石友助ヲ乙トシ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 賃借期間ハ昭和十七年十二月一日ヨリ才田坑產炭ニ
必要ナル期間ニ至ル 但シ乙ニ於テハ何等異議ナキハ勿論
合ハ何時無約スルトモ甲ニ於テハ何等異議ナキハ勿論
租界陪償等申出サルモノトス

第二條 賃料ハ末尾配機ノ通りトシ毎年十二月廿々年分ヲ賃
借文換フモノトス 但シ契約解除ノ時賃々年分補ノ部
合ト雖モ賃々年分トス

第三條 項前條了又ハ無約ニ依リ土地収買ノ場合ハ原形ニ復舊

29



昭和十七年十二月廿四日



ヌルモノトス

第四條 甲ハ末尾記後ノ土地ニ對シ一切故障ナキヲ保證スルハ勿論若シ第三者ニ所有權ヲ移轉シタル場合ハ其ノ第三者ニ不契約ノ事項ヲ繼承履行セシメ乙ニ何等ノ擔保ヲ要ラシメサルモノトス

右ハ高モ双方異議ナキヲ以テ不契約書ニ捺シ作成シ署名捺印ノ上各其一箇所保有シ後日ノ證トナスモノ也

昭和十七年十二月一日

高尾郡稻築町大字才田

貸主甲 大山 貞吉

高尾郡大隈町大字平隈

共同石炭株式會社日吉礦業所



地主乙 所長 明石友助



高尾郡稻築町大字才田字本谷貳貳番ノ地

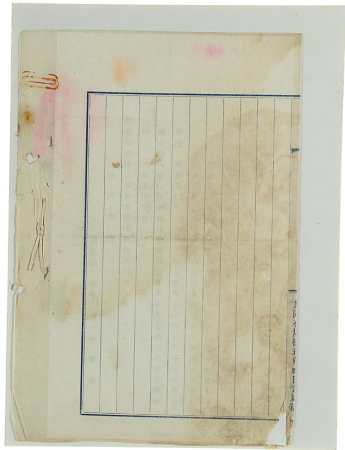
田 八拾貳坪壹合

壹坪當ハ帝國試驗館此會貸料壹ヶ年金九拾八圓五拾貳錢

附記 東邊使用坪ハ合部ニハ之餘クモ小字下ツコ大山賣吉

外五名々兼ノ田ハ八畝貳拾壹步ノ一部ニ水ハケ部ノ

總其部野ト見合シ合部部野當リ合部田貳拾餘也トス



(12)



追加契約書

昭和十七年十二月一日附貸借契約書ニ別圖ノ通り双方
合意ノ上追加貸借契約ス

従来 宅地 九十六坪四三

追加 二十四坪九六

計 百二十一年三九

此等日経所為

料金 従来ト同様

右

昭和二十年 五月 吉日

相 簿 司

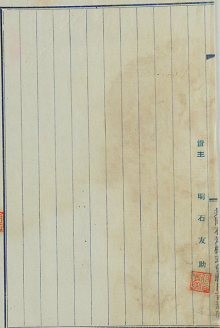
貸主 野見山 豊三郎

日吉 福築所 謹

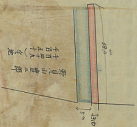
昭和十七年十二月一日附貸借契約書ニ別圖ノ通り双方合意ノ上追加貸借契約ス

世主

明石友助



- 通知係地
- 座借地



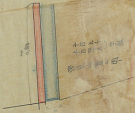
寄賣山無二箇
十箇(大)坐敷

2044.02 = 274.86

$\frac{1}{500}$

地主 明石友也

● 明石友也
○ 明石友也



土地賃借借約書

今般田同石炭株式會社日會館事務所田城津東車道敷地用トシテ
 本尾記號ノ土地賃借メ爾シ賃主野見山豐三郎ヲ甲トシ借主日吉
 鐵造所長明石友也ヲ乙トシ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 賃借借約ハ昭和十七年十二月一日ヨリ才田城津東メ
 必要ナル期間迄トス 但シ乙ニ於テ不用トナリタル場
 合ハ何時無約スルモ甲メ於テハ何事無効ナキハ勿論
 相害賠償等出サレモノトス

第二條 賃借料ハ本條記載ノ通りトシ毎年十二月廿々分ヲ時
 時支拂フモノトス 但シ契約無効ノ時賃々年未滿ノ部
 分ト雖モ賃々年分トス

第三條 應取高了又ハ無約ニ依リ土地返還ノ場合ハ恒形ニ存留

片司官長朱印截止日五拾日

スルモノトス

第四條 甲ハ東區配當ノ土地ニ對シ一切放棄ナキヲ保證スルハ
勿論若シ第三者ニ所有權ヲ移轉シタル場合ハ其ノ第三
者ニ本契約ノ條項ヲ繼承履行セシメ乙ニ債務ノ擔當ヲ
負ラシメサルモノトス

右ハ茲モ双方異議ナキヲ以テ本契約書ニ捺印作成シ署名捺印ノ
上各其一通ヲ保存シ後日ノ證トナスモノ也

和十七年十二月一日

高槻郡瀬衛町

貸主甲

野見山 豊三郎

高槻郡大隈町大字小隈

井洞石炭株式会社 日吉領事務所



伊集乙 所長 明石 友助

土地 啓示

高野郡新縣町大字浦生字二原壹畝四九番地ノ壹
高野郡新縣町大字浦生字二原壹畝五〇番地ノ壹
地積二七〇八拾九坪〇七ノ内

質貸 陸拾陸坪貳合

高野當手菅原新縣 此質貸料金壹ヶ年金因於多額給大錢
領面質押被貳拾四坪四合

高野當手六拾五坪 此質貸料金壹ヶ年金金拾五圓八拾六錢
合許料金 五拾九圓〇貳錢也

共同右取換式會社 日吉炭礦



土地賃借借契約書

今般共同石炭株式會社日吉鐵礦所才田坑煤炭車道敷地用トシ
テ末尾記載ノ土地賃借ニ關シ貸主野見山豐三郎ツ甲トシ借
主日吉鐵礦所長明石友助ツ乙トシ契約ヲ締結スルコト左ノ如
シ

第一條 賃借借期限ハ昭和十七年十二月一日ヨリ才田坑煤炭
ニ必要ナル期間迄トス但シ乙ニ於テ不用トナリタル期
合ハ何時解約スルトモ甲ニ於テハ何等異議ナキハ勿論
書賠償等申出ザルモノトス

第二條 賃借料ハ末尾記載ノ通りトシ毎年十二月壹ケ年分ツ
前納支拂ツモノトス但シ契約解除ノ時壹ケ年未滿ノ地
合ト雖モ壹ケ年分トス

共同石炭株式會社日吉炭礦

第三條 期間満了又ハ解約ニ依リ土地返還ノ場合ハ原形ニ復
舊スルモノトス

第四條 ①ハ末尾記載ノ土地ニ對シ一切故障ナキヲ保證スル
ハ勿論若シ第三條ニ所有權ヲ移轉シタル場合ハ其ノ第三
條ニ本契約ノ條項ヲ繼承履行セシメ乙ニ何等ノ違背ヲ覺
ラシメザルモノトス

右ハ蓋シ双方異議ナキヲ以テ本契約書二通ヲ作成シ署名捺印
ノ上各其一通ヲ保有シ後日ノ證トナスモノ也

昭和十七年十二月一日

經理 齋藤 榮 町

貸主 甲 野見 山 豐 三 郎

高 野 池 大 塚 町 大 学 午 院



共同石炭株式会社 日吉營業所

借主 乙 所長 明石友助



土地 表示

嘉穂郡 船橋町 大字 津井字 二塚 寄附 四九 番地ノ 寄

高 徑 四 拾 八 間 大 字 津 井 字 二 塚 寄 附 五 〇 番 地 ノ 寄

宅 地 七 百 八 拾 九 坪 〇 七 ノ 内 質 貸 坪 數 六 拾 叁 坪 貳 參

壹 坪 當 り 寄 附 坪 拾 陸 此 質 貸 料 壹 々 年 金 八 拾 貳 圓 貳 拾 錢 也

69.23

共同石炭株式会社 日吉炭礦



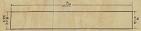
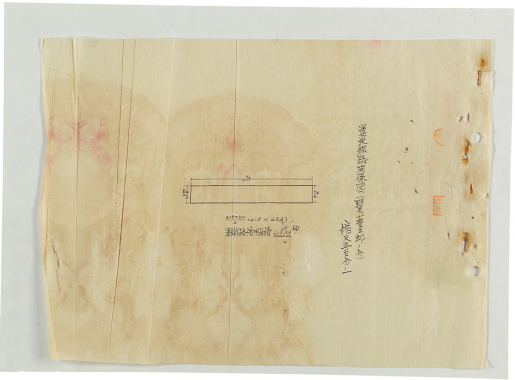


图 1
1.12
0.21
0.12

中国科学院植物研究所
1954年10月

100



土地賃借契約書

今般共同石炭株式会社吉備薬所才田坑運炭車道敷地用トシ
テ末尾記載ノ土地賃借借ニ願シ貸主大山泰正ヲ甲トシ借主日
吉備薬所長明石友助ヲ乙トシ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 賃借借期間ハ昭和十七年十二月一日ヨリ才田坑運炭
ニ必要ナル期間迄トス 但シ乙ニ於テ不用トナリタル場
合ハ何時解約スルトモ甲ニ於テハ何等異議ナキハ勿論相
齊賠償等申出ザルモノトス

第二條 賃借料ハ末尾記載ノ通りトシ每年十二月壹ヶ年分ッ
前納支拂フモノトス 但シ契約解除ノ時壹ヶ年未滿ノ場
合ト雖モ壹ヶ年分トス

第三條 期間満了又ハ解約ニ依リ土地返還ノ場合ハ原形ニ復
舊スルモノトス

共同石炭株式会社吉備薬所

第四條 甲ハ末尾記載ノ土地ニ對シ一切故障ナキヲ保證スル
ハ勿論若シ第三者ニ所有權ヲ移轉シタル場合ハ其ノ第三
者ニ本契約ノ條項ヲ繼承履行ヤシメ乙ニ何等ノ迷惑ヲ與
ラシメザルモノトス

右ハ竊モ双方異議ナキヲ以テ本契約書二通ヲ作成シ署名捺印
ノ上各其一通ヲ保有シ後日ノ證トナスモノ也
昭和十七年十二月一日

高砂市船場町

貸主甲 大山泰正

高砂郡大塚町大字牛隈

共同石炭株式会社吉備薬所



(27)



借主 乙 所長 明 石 友 助

土地 要 示

嘉穂郡細橋町大字惣生字二梨寄寄七ノ五番地

田 寄反參畝拾四歩ノ内貸貸坪數 五拾肆坪大合七

寄坪當リ寄割貳拾餘 此貸貸料壹々年金拾拾拾拾餘也

澗池 參坪〇四

寄坪當リ六拾餘 此貸貸料壹々年金壹圓八拾貳餘也

合計 參拾肆拾肆坪餘也

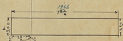
合計 七拾貳圓六拾錢也

共同石炭株式會社 目吉炭礦

石友助

大
石友助

蓮花標路廣張國天公卷一色
編文三〇〇分一



28.6
1.5
28.6
1.5





追加契約書

昭和十七年十二月一日附貸借契約書ニ附圖ノ雜リ及方
台頁ノ上追加貸借契約ス

従来 田 五十八坪九八

追加 十八坪六八

計 七十九坪六六

料命 従来ト同様

右 昭和二十年 月 日

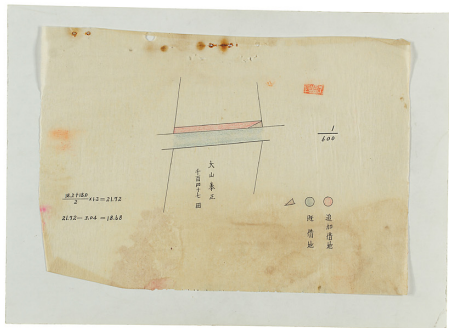
借主 大 山 善 正

日吉農業所長

借主 明 石 友 一 助

共同石炭株式会社 日吉農務





同録付添書

追加契約書

昭和十七年十二月一日附土地賃貸借契約書ニ左ノ通り双方合
意ノ上追加契約ス

従来現地歩坪〇四ニ對スル料金一坪當リ六十錢也ラ壹圓貳
拾錢也ニ改正シユンドレス軌條布設置トス

右

昭和二十年 月 日

稻築町

貸主

大山 泰 正

日吉鑛業所長

借主

明石 友 助

共同石炭株式会社 日吉炭礦



(8)



110.9 (34)

昭和廿四年十月十六日

福岡縣蒲池郡新築町大字才田

共同石灰工業株式會社石川製煉所

所長 宇佐 見 登



新築町

町長 西田 洋 盛 殿

(大山房 乙口)

町有土地倉庫地甲新築

一、場所 新築町大字才田字本谷ニ一ノニ番地

一、地 日 道路 敷 地

一、用途 地 目官御藏所御樂用地

一、使用坪數 二畝十六步(七六坪)

一、使用料金 租指定通り

石川製煉所倉庫ハ現在道路敷地ト取ツテイマヌガ租況ハ大字才田
建設道路ノ沿道トナリ道路トシテ使用ナシ居ラス然レテ御樂地ハ
町才田區域内ニ於タル官御樂用地ノ支辨トテ關フ町才田製煉所ハ

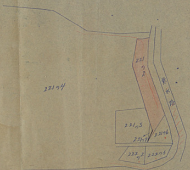
方面ヨリノ新所内延路ニテ柜体建築用知トシテイサトハ土竹ノ
 マスノア特利ノ和置置ッ以フテ貸與稅下等々利權ノ上ハ料金ヲ
 如願決シテ和込形租額甲面整々存シ居リマスノア石俵地甲面致シマ
 ス

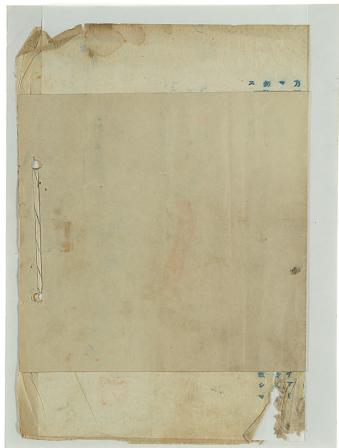


福岡縣嘉穂郡福菜町大字才田
 字ホシ谷

$\frac{1}{100}$

凡例
 □ 出賃地畝





方 角 入

方 角 入



契約書

目吉鉱業所を甲とし（以下甲と稱す）徳富町大字才田代表者岡井作一外給老を乙とし（以下乙と稱す）甲が早川より排水使用に關し左の通り契約を締結する。

記

第一條 乙は甲が徳富町大字牛原字早川堀内に有する水源地より排水使用することを關係地耕作者として認許する。

第二條 甲は前條の排水により生ずべき堀内の耕作被害に對し毎年一回その年の拾月此補償金を支払う。

第三條 前項補償金はその年に於ける政府買上標米備蓄専米の需供分とする。補償金の個人配分は乙にて行い。

第四條 甲は本契約に關して前條の補償金以外如何なる補償も行はざい。毎年七月迄日より九月末日の期間に於て乙の耕作用水に非ず部頭が生じた場合乙の申出により具体的処置について別策を協議しなければならざい。

第五條 本契約締結に關して甲乙が相互の立場を理解し同意を以つて履行すること。本契約を改正或は解除する場合は甲乙協議決定しなければならざい。

第六條 但し締結日より叁年間は改正しない。

第七條 本契約成立に先より昭和拾四年締結の早川水利権に關する契約は無効とする。右契約成立の証として本書武治を複製甲乙各壹通を保有する。

63子



昭和拾年貳月拾日

福岡縣嘉穂郡稲築町大字才田

甲 共同石灰産製株式会社

日吉 敏 泰



福岡縣嘉穂郡稲築町大字才田

乙 代表者

向井作重



谷口重次



大山武雄



大山養生



大木重三郎



半の原郎



大山井造



奥迫續



木下口廣



野崎益三



契約書附屬覚書

「本契約に依り、昭和二十九年庚寅春補償（五俵分）の支払はし
なす。

63号

昭和拾年四月

打しり望の心作發、
為不用







昭和廿四年十月廿六日

福岡縣嘉穂郡稻葉町大字才田

共同石灰鑛業株式会社吉備樂所

所長 宇 佐 見 敷 一

領事官

町長 西 田 洋 藏 殿

町有土地借地申請書

一、場所 稻葉町大字才田字本谷ニ一ノニ番地

一、地 目 道路敷地

一、用途 日吉御樂所舗築用地

一、使用坪数 二畝十六歩(七六坪)

一、使用料金 御指定通り

No. 21

石平御樂所地ハ現在道路敷地ト成ツタイマスガ現況ハ大字才田ヨリ
辻越道路ノ沿線トナリ道路トシテ使用ナシ居ラス然シテ該地ハ稻葉
町才田區域内ニ於ケル官舗築用地ノ立戻トテ關テ可キ重要地點テ故

方面ヨリノ稱所内道路ニテ總舗築用地トシテ必要ナル土地デアリ
マスノテ特別ノ御設備ヲ以ツテ貸與被下度ヲ拜借ノ上ハ料金納入ハ
勿論決シテ御迷惑相掛申儀敷ク存シ居リマスノチ石借地申請致シマ
ス



公署
大
印

116



契約書

嘉徳郡福築町大字才田字大へう前百六拾六番地は
一山林九町九反七畝五歩の内〇五町歩

右同所山林九町九反七畝五歩
一山林九町九反七畝五歩

合計五町六反五畝六歩也

但し右内陸及参取拾七歩は昭和拾七年拾月一日
契約のときを更新し本契約に係り換すも
右土地を炭坑佐佐敷地及開墾地として大隈公
大生牛隈共同石灰株式会社日吉鉱業所々長宇
佐良敷一三三とし福築町有賤産管理者西田祥
盛と甲として契約す此の通り

百五丁五



第一條 乙が借用する土地の賃貸料は左記の通り

とする

五号及五款六歩の内式町〇及〇敵の賃貸料は、
陸〇年には年々五〇元とし、参号及五款六歩
の賃貸料は、陸〇年以後年々五〇元とする

第二條 乙が借用する期間は昭和参年陸月尾日

より昭和参年参月参日迄、陸〇年とする

但し、陸〇年参月参日迄、陸〇年とする

本契約を更新して設定するものとする

第三條 乙は賃貸料金は毎年度毎に一時に前
納するものとする。但し、陸〇年未満は月割計算

とする

第四條 甲は前記契約土地に關し、公共用必要を
生じた場合は、契約期間中、乙は本契約を

解約する

とす

第五條 土地返還の場合は返還の當時の現状

の儘返還すること、其の際閲覧費及自管上の

為、一切の費用は乙から甲に請求せしむること

第六條 石炭採掘其他の被害に對しては借

地主直接關係者に交渉すること

第七條 賃貸土地に對し、料金を納入未済又は不届

合の行為をした場合は、本契約期間中、乙は

本契約を丁安

甲に於て解約することを得るものとす
第八條乙は本契約に依る土地は他人に轉貸借
又は讓渡することが出来ない
右相互契約の証として本書交通と作成し右交通
を領有するものとす

昭和五年十二月廿日

共同石炭株式会社 日吉鉱業所

稲葉

稲葉所長 西田 祥彦

昭和六年一月三十一日

總行委員會 協議事項

一、貸付金全額を返済したつて

二、大田地区に於ける権利

三、其の地についで

一、日吉鉱業所(一)の貸付金並に地租は前記の如く清算され、残存するものは
これを返す。但し今後貸付金、借金は元金に引上り、利息は元金に引上り、地租
を徴すること
二、大田地区は鉄業所、同地区との別あり、地租は元金に引上り、利息は元金に引上り
三、貸付金全額返済完了、貸付金は元金に引上り、利息は元金に引上り



1. 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉

1. 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉

1. 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉

1. 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉

1. 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉 漢代中葉

漢代

漢代

漢代



稲築町大字大田庄大へラ二二六ノ一番地借地圖 縮至三百分一



稲築町大字大田庄大へラ二二六ノ一番地	小字番番地目録	番付
面積 228.4 坪	大田庄大へラ	所有権者
二二四 山林	大田庄大へラ	所有権者
二二五 山林	大田庄大へラ	所有権者
二二六 山林	大田庄大へラ	所有権者
二二七 山林	大田庄大へラ	所有権者
二二八 山林	大田庄大へラ	所有権者
二二九 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三〇 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三一 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三二 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三三 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三四 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三五 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三六 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三七 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三八 山林	大田庄大へラ	所有権者
二三九 山林	大田庄大へラ	所有権者
二四〇 山林	大田庄大へラ	所有権者



土地賃借契約書

土地の表状

高橋郡稲葉町大字平字五反田一五五番地

山林 台帳面積 一六町一反一畝六步

(附)

右町有地の一部(二町一反九畝二八步)を昭和二十七年十月十日付にて土地賃借契約書により、御町と締結して居りましたが、当方の借地の目的は隣地の一五五番地、一五四番地の両面池が傾斜により一部修繕を要するので借用地の土砂を掘立に使用したのであります。

然し該地は御町と稲葉との間に地上権を設定兼行造林地契約が締結されておりますので、兼行造林契約一部解除申請を為し許可がなければ工事に着手出来ざる状況にて、御町と土地賃借契約の紐にて今日に及んでゐる次第です。

故に申請に關しては、県庁宛右一五五番地の一部兼行造林解除申請書を、昭和二十七年八月二十三日一たび提出し、この分が御町との契約区域にて、面積二町一反九畝二八步)したるが、此後になり、昭和二十七年十二月二十六日第三次提出(希望面積三町七反一畝八步)を為したアも之も是より修正命令を受け、昭和二十九年一月第三次提出(希望面積一町三反七畝一歩)申請中にして未だに許可ならざる状況であります。

右の事情にて願書の区域と差異を生じましたので、御町と昭和二十七年十月十日付にて締結し

たる土地賃借契約を昭和二十八年十二月三十一日付にて解約して取り、新しく別紙の通り町有地占用願(第三次発行への申請区域)を提出致しますので、御許可下さる御願願ひ申上す

昭和二十九年 六月二十一日

高橋郡稲葉町大字才田二六番地

共同石炭礦業株式会社日置鉱業所

法人代表者 取締役所長 宇佐見 敏一

稲葉町長




西田 祥 盛 殿



嘉穂郡箱築町大字平字五反田一五五番地
借用關係圖 箱尺千二百分二



凡例

	赤線	借用關係境界線
	青線	所有權境界線
	黒線	地籍圖境界線

右 田
左 畑
中 雑草



自作農創設特別措置法第五編第五節第五號の規定による指定を申請する

自作農創設特別措置法第五編第五號の規定による指定を申請する

記

No. 6

指定を受けること する農地の所在	地番	地目	面積	耕作地
農産部稲作町大字 才田小字向トビ	二二五 ノ一	畑	四一五 ノ内一四三	自作
	二二四	畑	ノ内一四三	自作
	二二九	畑	ノ内一四三	自作
	二二八	畑	二二八	自作
	二二七	畑	一四一四	自作

農産部稲作町大字 才田小字向トビ	地番	地目	面積	耕作地
	二二六	畑	四二九	自作
	二二五	畑	四二九	自作
	二二四	畑	二二四	自作
	二二三	畑	二二四	自作
	二二二	畑	二二四	自作
	二二一	畑	二二四	自作
	二二〇	畑	二二四	自作
	二一九	畑	二二四	自作
	二一八	畑	二二四	自作
	二一七	畑	二二四	自作

二、使用目的を購買しよるとする理由

日本経済上農地復舊が如何に重要且つ緊要を要するかは今更言ふ餘もなきを感るとか農地復舊費の第一要件として勞務者をその確保に必要なりとし戦時中は此身隊員の留守者の労働刀に候つ所



大分はしも現況に於ては労働者の主力は家族持にある状況なり一方富田用薪材の供給不足に於て刻下の富田の労働力は労働力の増加に果する感極めて大なれば労働者 宅の確保は一日も餘をなし得ざる感なり

依つて「臨時農林労働者宅建設費用」により住宅敷地として使用致すものなり

三、変更後の用途

富田職員住宅敷地の一部として使用す

建設予定戸数

職員住宅 二戸左二十六棟 總建坪 六二四坪

四、附近の状況

富田農地は副業用地として三井物産製菓所が大正十三年買収せるも事業計画の變更に併りその間放棄し副業農産物の爲農耕地と化したるを近年食糧事務の急迫の爲自家農産物として栽培（三斗）が一部委託耕作に行し、一部を小作地とせり

農耕地は台帳簿には畑田が田とあるも現況は前番の如く一部は荒廢地一部は畑地として可

行すれども元來が傾斜地なる上に重粘土質の土壌にして其た條件悪し耕作価値少し
其の地の参考事項

一、附近土地建物配置状況

字圖別紙添付

二、最近三ヶ年間に於ける連作物の作付及別收穫高及耕作等の變遷の
概況

富田農地は元來副業用地的目的なりしも前段（四、附近の状況）に於て記せる如く
畑として不適格なれば小作料の取きめもなし農耕地が必要に感じて何時にても返還の
約束あり

耕作者の大部分農林従業員にして新田開墾的耕作なる故收穫高著しく低し且不足を
經つて耕作の確保計に困難となる者愈々多し

甲、開墾します

昭和廿三年 月 日

申請人 東京府中央區藤町一丁目十一番地

共同右炭田産株式會社

右代理人 社長 入 空 六 野

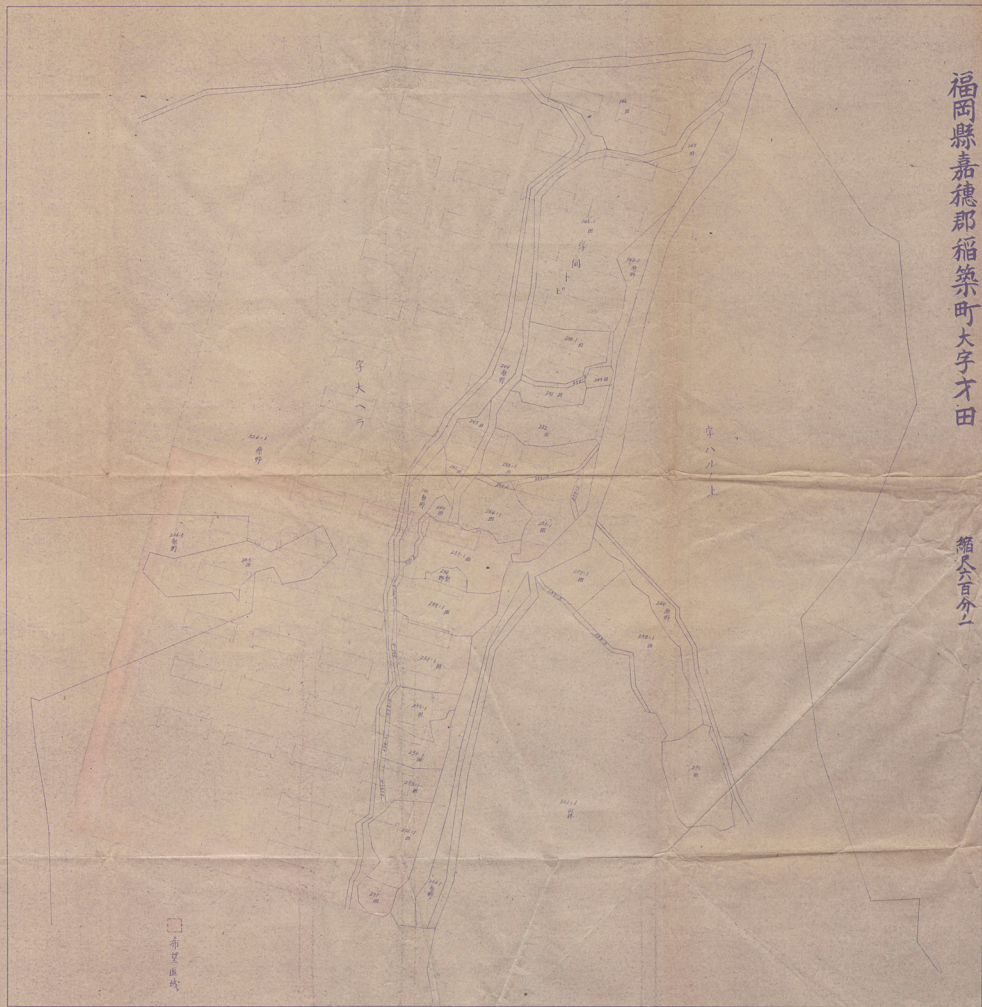
墨田區森下町墨田大字才田三六ノ一
共同右炭田産株式會社日吉館事務所

所長 宇佐昆 敬

附録町 森下委員會 設

福岡縣嘉穂郡稻築町大字才田

縮小百分之一



赤字區域

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

交付昭和3年/2月22日

横長 經理課長 成務課長 保員



311



覚書

今般半限任在信第代表トシテ貴社ニ由テ他信者様 硬直執
向ノ記上様宛封可儀 付テ封シテハ尤記ニ付テ氣取致シテ貴社
日ノ隔人更書書 廿五件

記

- 一 半限任在信第ニ限リ同宗用英様上ノ様上ニ様若野用記ノ取
付交付ニ付テ様若野用記管取ノ台ノ管人限リナク
- 一 硬直執場外ノ外様様ニ付テ是等ノ様上ノ付テ是等書取 如
何ノ内ノ人更書ノ其ノ書上ノ其ノ人
- 一 付書ノ即左ニ其ノ他ノ書内ノ付テ様若野用 様若野ノ送取同業業
上ハ力メテ様若野用指定ノ元更書取中ニ出テ付テ事
- 一 半限任在信第以外ノ書ニ様若野用記ノ取致シテ又ハ様若野用均迄

按著子孫心之思滿中し名ヲルル事

一作聖ノ如左上皇ノ御事由ニヨリ又ハ不勳在行爲上皇

ノ陽合ハ何時ノ子孫名聲ノ可ク榮也ナリ心ノ思滿中シ云

テヤル事

如乳十五下十五卷林一曰

是皇名蒙
持命命曰名美孫物言

按此書ノ條ニ確ニ相字可ク榮也

平根臣花佐

代名

唯石夜助

大皇助次郎

野見山安太郎

大皇駒次郎

林清



芳井清次郎

金老政在

信條一保為志

鎌田新太郎

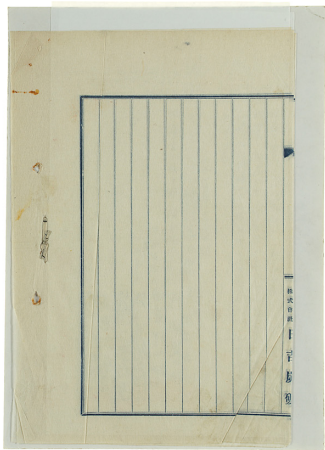
田籠卯七郎

浅田定一助

林文白先生詩集

林文白先生詩集





林次白紙
一
三
五
七
九



松本北毛

契約書

(32)

式字情

高穂郡高穂村大字才田組(以下単ニ甲ト稱ス)ト、井貝石炭株式會社日吉炭坑(以下單ニ乙ト稱ス)トノ間ニ於テ高穂郡高穂村大字才田給養池(以下單ニ高池ト稱ス別紙添付圖)ニ對スル讓渡被償補償ニ關シ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 乙ハ甲ノ權利ニ關スル高池ノ水利ニ付讓渡被償補償金トシテ金四百圓也ヲ本契約締結ト同時ニ甲ニ支拂フモノトス

第二條 前條補償金ハ既往及將來ニ於ケル讓渡被害ニ關スル一切ノ費用打切金ニシテ今後乙若クハ乙ノ特定人又ハ包括承繼人ガ石炭採掘ノ爲メ高池ニ對シ漏水若クハ枯涸ニ依ル水利上ノ被害ヲ及ホシタル場合甲及ビ

第三條 前條水利補償金乙若クハ乙ノ特定人又ハ包括承繼人ニ對シ第三條

第三條 前條水利補償金乙若クハ乙ノ特定人又ハ包括承繼人ニ對シ第三條



又ハ前池管理者ヨリ損害賠償其額異議ノ申出テアキタルトキハ乙ハ其
 責ニ任セズ甲ニ於テ引受ケ一切ヲ解決スヘキ義務ヲ負フモノトス
 右條約ノ履行トシテ本管區域ヲ作成シ甲、乙、各置通苑池有ス

昭和十四年六月十六日

甲為 臣長 大山佳次郎

臣長 大山喜市郎

評議員 大木和正

大木和正印

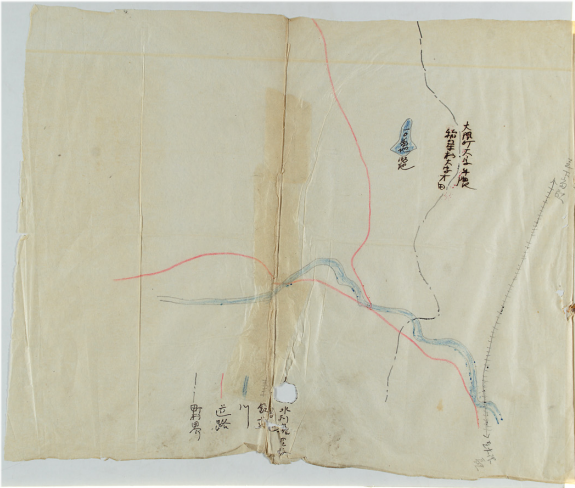
佳次 大山 泰正

共有人長村司合注皇正長村泰高

乙為 野村 良島



惟以...
 共有...
 乙者...



其字所

覽 書

昭和十四年六月十六日 日賣讓ト才田區トノ間ニ締結セル高瀬郡沼津村大字才田給香地留地ニ關スル讓渡被香補償契約ニ就テ指者共承認仕リ候
 就而右留地關係區域地主一同ニ對シ見舞補償ト行切金壹千八百圓也拜
 受領上ハ將來被害ノ有無ニ不拘頂香補償及抗議等一切要求申同敷候テ后
 日ノ島國紙者速書ノ上一札覽香地人申候也

昭和十四年六月十六日

地主

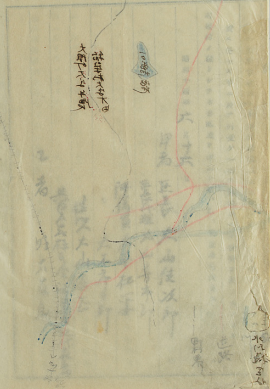
大木和太郎

大木三郎

近江村人 大山村平次

大山村平次

大山村平次



昭和十四年六月十六日
 大正十四年六月十六日
 大正十四年六月十六日

印紙



領收証

一金 虎千八百圓了

昭和十四年六月十六日 大正十四年六月十六日

右金正二領收仕候

昭和十四年 六月十六日

日吉炭礦事務所御中

大正十四年六月十六日
 大正十四年六月十六日
 大正十四年六月十六日
 大正十四年六月十六日
 大正十四年六月十六日

共百五拾圓
 大正十四年六月十六日

俾以 大正十四年六月十六日



特殊郵便物受領證

引受番號 857

重量 1 斤 郵便料 4 角

(受取人の氏名) 身田 課長

(送取人の住所氏名)

日吉炭坑 (積込)

(積込場所)

(積込引取番號)

(積込引取場所)

昭和 5 年 6 月 11 日引受

牛隈 郵便局

日吉炭礦事務所御中

大山平平及
大山平平及
大山平平及
大山平平及
大山平平及

共白の上様斗合江
作表石の石反如改

伴以大山平平



保次 大山 奉 上

世田谷 奉 上 奉 上

日吉 炭 礦 事 務 所 御 中

金 五 二 兩 米 廿 兩

大山 奉 上
保次 奉 上
世田谷 奉 上

金 五 二 兩 米 廿 兩

日吉 炭 礦 事 務 所 御 中

控

印 紙

領 收 証

一 金 四 百 圓 一 丁

昭 和 十 年 六 月 十 六 日 付 日 吉 炭 礦 事 務 所 御 中

右 金 正 二 領 收 仕 候

昭 和 十 年 六 月 十 六 日

木 田 長 三 郎

大 山 炭 礦 事 務 所

日 吉 炭 礦 事 務 所 御 中



共済会保存会

併大山泰正

日吉炭礦事務所御中

現金五二圓並廿圓
大田泰正

共済会保存会
現金五二圓並廿圓
大田泰正

印紙



領收証

一金五十二圓

但附札金

右金正二領收仕候

昭和十九年六月十七日

大山泰正

日吉炭礦事務所御中



此乃五保書

保以大山壽正

日吉銀壽事善照時中

計金五二銀取廿
六二六

明子

一會五保書

無款銀



白書後儀、

一 世指原野、便宜及被逐着、對ハル、命議ヲ視ム

一 白書後儀ハ、等行トシ、人高格内ヲ、世ニ授候又

一 肥前、会郡、所履、予、世ニ仕意ニ、改取ラレ、ニ、

一 世儀ハ、可左の大取所、刊卷ヲ、謀ル、ト、始メ、

世所、邊界、等、所、海、半、際、ニ、ニ、

右大取格尾多、一、青、昔、各、部、表、前、儀、上、決、定、ノ、

世儀、代、表、并、上、ハ、ハ、ニ、承、取、ム

(19) (A)



酒了 池書

一全卷古月也

右規了全、身、以、別帝契紙書、通

り通守及、事

右白、頭、甲、七、也

大正十二年九月十六日

海町行書下出、山、湯池

實係代表

岡本藤太郎

日吉山久坑事務所御中

日吉 炭 坑





契約書

一 嘉穂郡熊田村合子下山田を争ひ合ひ於て日吉炭坑石炭採掘ニ付キ今所活池排水路上使用之日吉炭坑ト該活池濯池田地主ト間ニ契約スルコト尤ノ如シ

一 契約上便宜ノ爲メ各地主ト申シテ杉高層蔵ヲ乙ト稱ス

一 乙者ハ排水路ニ硬カス管ヲ流シ込メル様現在埋込メノ土管ノ上下ニ両側ニ見全ナル石垣ヲナスコト

一 乙者採炭事業中ハ土管内ハ勿論石垣等ノ潰崩ヲナストキハ流水ニ是支テキ様直ニ復旧工事ヲ施スベキコト

但シ此場合ハ保證金ノ内ヨリ支出スルコトヲ得ズ

一 前項復旧工事ヲ怠リタル爲メ生ジタル損害ハ乙者ニ於テ異議ナク年償スベキコト

日吉炭坑

一 乙者炭業ノ際ハ用水路ハ原形ニ復旧工事ヲナスベキコト

乙者ニ於テ用水路上埋込メ土石ヲ取除キ復旧工事ヲ終ルル時ハ保證金ハ甲者ヨリ乙者ニ返金スベキコト

一 前項復旧工事費ノ保證金トシテ金銀百圓也テ乙者ハ甲者ニ領テ置テコト

一 乙者ニ於テ復旧工事ヲ怠ル時ハ甲者ノ前記保證金ヲ以テ施シテ保證金トシテ不足ノ分ハ乙者ニ於テ支出スベキコト

但シ此事費トシテ保證金ニ剩余アリタル場合ハ甲者ニ返金スベキコト

右取方合意契約ノ内容ニ履行可致後日爲メ契約如件

字之島町共同石炭株式会社 日吉炭坑

大正拾貳年八月三十日

熊田村合子下山田

鑛業代理人

杉島重蔵



國師地之

國師地之

杉岡信之

坂田由太郎

岡本藤太郎

田布平太郎

岡本早太郎

佐藤助次

佐藤松五郎

松岡聖太郎

松岡次郎

前田順藏

安部福太郎

松岡

日吉辰坑

坂田定次



22
大隈町
大隈町
大隈町

契約書

大隈町ヨリ由野ノ通ニテ縣道間通ニ依リ大隈町ヨリ甲トシ
 曰古炭礦ヲ乙トシ契約スルコト老ニ此
 一 乙ハ抗折ヨリ横断ナル里道及運炭軌條敷地并軌條割ヨリ
 空地別紙圖面ヨリ縣道間通ト夫ニ時令老ノ間也甲ノ納入
 ン鏡並終管中自由ニ使用シ得ルコトス
 一 乙ハ鏡並廢工ト夫ニ使用敷地ヲ埋積ス甲ノ運地又ハ之ノ下
 一 該借地ノ使用限ニ於テ者ヨリ抗折ノ中出資トシ之場合ハ甲ノ於テ
 一切共ニ責ヲ負フコトス
 右後ヨリ為契約書ニ通リ作製シ甲乙各老通借管スルコトス
 昭和五年七月二十二日

契約者 甲

大隈町長

大 吾 森 太 郎

大隈町
大隈町

契約者 乙

共同石炭株式會社ヨリ古炭礦ノ賣代理人

明 石 友 助

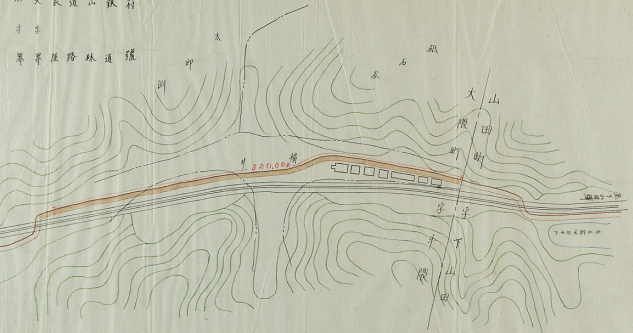
明石友助

大隈町



小 大 山 頭 山 鐵 符

子
 界 界 路 林 道 道



出願書類添附圖

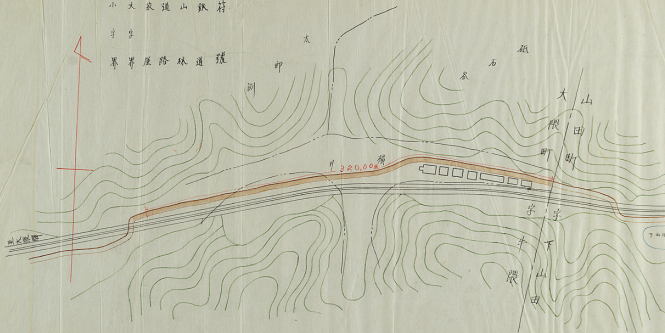
尺度千二百分一

附圖
 大田
 大田



小 大 交 通 山 鉄 符
字 字

界 界 屋 路 林 道 環

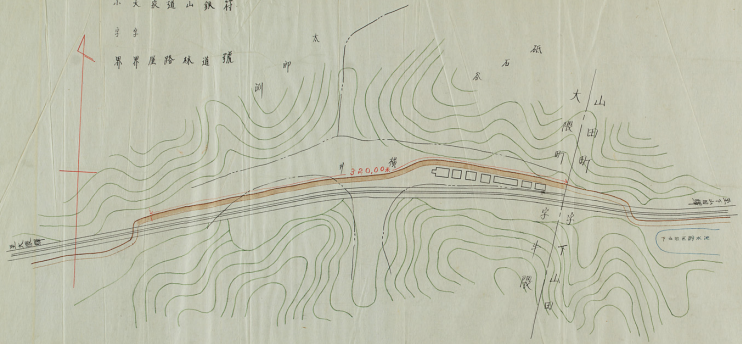


新編 實地大圖

出願書類添附圖

尺度千二百分一


 小 大 茨 頭 山 鉄 符
 字 字
 界 界 屋 路 林 道 疏



道路新設區域見取圖


昭和十六年
五月

五号地切

山 林
運 新 旧 溝 飲 符
炭 道 道 道 道 道
軌 道 道 道 道
道 路 路 路 路 路
林 道 路 路 路 路



五号图切



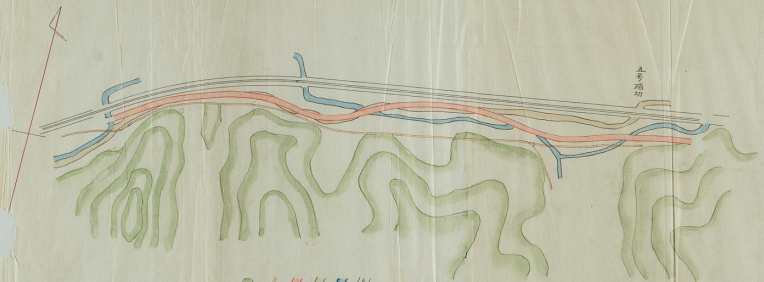
山 林
新 道
旧 道
洋 道
铁 路
符 号



道路新設區域見取圖

大正
陸軍省
測量部

五号箱切



				
山	新	旧	溝	符
林	炭	道	道	號
	軌	路	路	
	道			



23

(23)

寄指第一〇四三號

福岡縣總郡大隈町大字牛ノ原一七五〇
日吉辰坑 明 石 友 助

昭和九年十二月三日付州田園局水道工事竣工ノ件検査ノ始米給水支障ナシ

昭和九年十二月二十日

縣西區知事 畑 山 四 男 美



福 岡 縣



24

規電第

門司 區經由
本陽 局經由

號

4272
94号

(規八階)

昭特
和設
電可
話第

昭
和

年
月
日

舊名義人
新名義人

附申請
番加入名義變更件

熊本逓信局長 牧野寶



24 10/11 11元
25
26

(25)

規電第一八〇。

水原 郵便局給由

辨

(規四辨)

福岡縣築上郡宇島

町宇島一〇。

番地

昭和

四年

十一月

日附申請特設電話機

械設置場所變更之件認可又

但し別紙工事設計書記載物件（施行者株費給料ノ除シハ）
左記ニ依リ供出シ施行者ノ株費給料ハ工事竣工後別ニ發行
スル納入告知書ニ依リ指定郵便局ニ納入スル

昭和四年十一月十五日

熊本逓信局長 牧野實



一設備用物件ハ三十日以内ニ機械設置場所ニ準備シテ

(26)

第七二七號

熊本遞信局

福岡縣 福地大坂町字平ノ渡

其同石炭株式會社

昭和三年三月一日及三月六日開申請自家用電氣工作物建設ノ件認可ス

昭和三年五月十八日

熊本遞信局長 牧野 謹一



電第七二七號

昭和三年五月十八日

通 碟

頭 本 憑 信 局

共同石炭株式會社 轉申



通設認可ノ件

右認可相成候條給合書及交付候

郵 局 印 記

(27)

第二六〇號

假使用認可證

検査吏員 豊田 昌博

日誌 林 典

共用右左様 分札

昭和三年五月二十八日付届出落成電気
工作物ノ検査ヲ了シ電気事業法施行
規則第四十七條ニ依リ假ニ其ノ使用ヲ
認可ス

本證有效期間ハ本日ヨリ起算シ六十日トス
昭和三年六月六日

熊本通信局



(28) p18

電第九六五號

昭和三年六月廿三日

題 條 原 本 課 信 局

共同石炭株式會社 御中

使用認明ノ件
右別紙ノ通り認可相成候條御返答及御付候



日本電信局

(29)

附電指第四三號

和國郵政總局大津町牛ノ島
共同石炭株式會社

昭和三年五月廿八日附届出落成電氣工作物ノ使用ヲ認可ス

昭和三年六月廿三日

和國郵政總局 敬 野 寶 一



和國郵政總局

4
F
F
F

自作農創設特別措置法

第五條第五號の指定申請書

自作農創設特別措置法第五條第五號の規定による指定方申請書

一 記

指定をうけようとする農地の所在

指定をうけようとする農地の所在	地番	地目	面積	積算	自作農創設特別措置法第五條第五號の規定による指定方申請書
大阪府大分市 大分町大字半田	一〇七二ノ一	田	台敷	現況	台敷
	一〇七二ノ二	田	道路	現況	現況
	一〇七二ノ三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ二九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ三九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ四九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ五九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ六九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ七九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ八九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九〇	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九一	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九二	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九三	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九四	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九五	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九六	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九七	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九八	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ九九	田	雑草	現況	現況
	一〇七二ノ一〇〇	田	雑草	現況	現況

二 使用目的を變更しようとする理由

黄旗農圃用地として昭和八年八月買収現況は下早川一〇七二ノ一
 一番地既成歩は運賃車道敷としてまた大谷一〇七二番地既成四
 畝既成歩は既に金部運賃市場電車充電所其他既成用地として現余
 は圃寄地として定取せり

日吉 廣 業 所

農地買収の用途

農地買収地として丁作物其他農産物集上施設用農地

以附従の状況

既に一部は縣道敷地となり一部は農坑々所内に留し殘余の部分は附
近に全く農耕地をなし

其其區參考事項（附従、土地、建築物設置状況、見取圖、最近三ヶ年に
於け；主作物の作付反別收得高、耕作省の農産經營状況等）


本自作農田收得別用區域施行前一部は既に農坑農耕地として使用し
調々地目變更の手續未了のため土壌台帳圖には田として記載ありも實
際（現況）は農耕地と化し現存の土地は無害地（無毒水浸入土質酸性
化）で全く農耕地とならず現況は完熟地である；



昭和廿二年七月十八日

福岡縣高橋郡大隈町大字牛殿

共同石灰製煉株式会社日吉製煉所

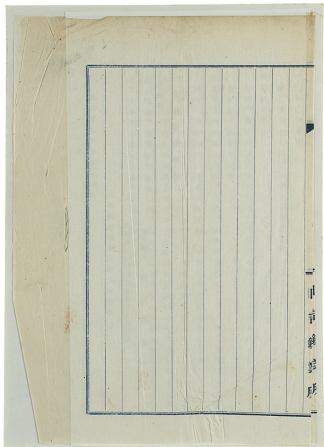
右代理人 宇佐 良 敷 

大隈町

農地委員會殿

日吉製煉所





一
山
石
錄
序



5

牛馬草
不答

農地除草申請書種類

名目	摘要
日破活星已成種去 計表同之許可書	稻米農地 手取合
自採果勿拔特別種 置評踏定申請書	大原外農地 手取合
大田三塚岡(坪)等 新自採果置評合	稻米等
22分以下、無種、 防草使用許可申請書	〃
寺林田夜家 東北菅野田清書	稻米等知事
大田岡(三)置評書 大田夜家田置評書 置評書許可書(大田夜家田)	河原野知事

Red circular stamps at the bottom of the table.



土地調査法第六條ニ依ル許可申請書

調査地ノ土地調査法第六條ニ依リ耕作以外ノ目的ニ使用致シマス
ヲ御許可下サレ座地調査法施行規則第十條ニ依リ申請致シマス

昭和二十二年六月十一日

東京部中央區藤町一丁目一

申請人 共同石炭礦業株式會社

福岡縣高田郡藤町大字才田

共同石炭礦

事務所 日吉區藤所

右代理人

所長 宇佐見 登



福岡縣知事

砂之末 啓 次 殿

日吉廣業所

記

一 當該農場ノ所在、地番、地目、面積、利用狀況及普通收得高並ニ當
該農場ガ農地回轉法第七條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ
維持セラレタル時ハ其ノ旨

（現地）
（160）

所在地番	地目	面積	利用狀況	普通收得高	農地回轉法第七條ノ自作農創設ノ有無	所有者
道前町大字一ノ丸六番	畑	四	農地	無	有	農地回轉法第七條ニ依リ創設又ハ維持セラレタル時ハ其ノ旨

二 當該農場ヲ耕作以外ノ目的ニ供スル爲ニ必要トスル事業又ハ施設ノ
概要及發動其ノ他ノ工作物ヲ設置セントスル場合ニ於テハ其ノ概要

件事業

日吉廣業所

當日吉嶺事務所田邊坑ハ職員ノ住宅少ク從職員ノ過半數ハ隣接地
大隈町、山田町ヨリ各々田邊坑ノ居ルガ如ク狀態ノ爲メ石炭増重上
最モ水路トナリ之ガ打開ノ爲メ職員住宅ノ建設ハ急務ヲ要スル事
顯ニシテ當該地ハ細書不毛田ナル爲ト既設職員住宅地及礦業地
設地トノ接續地ナル爲ニ上記職員ノ住宅敷地トシテ使用スルモノ
ナリ

田邊坑ノ概要

職員住宅 田邊 合 計 十六戸 田邊町 十六坪



詳細使用承認書

一 場 所 命田郡田代町大字鹿森字二級 一〇七、一〇八、一〇九、一〇一〇、一〇一一番地 管地 松尾山系、田代川流域
 一 題目、使用呼称 一〇七、一〇八、一〇九、一〇一〇、一〇一一番地 管地 松尾山系、田代川流域
 一 使用目的 道路渡渉施設
 右は右戻増進上必要な措置で、上掲諸箇所共に於て歩解の上出地契約
 成立しましたので、備承認下され反逆害の上御願ひ申します。

昭和二年五月 日

命田郡田代町 陸生
 主 野見山 市郎 外三三
 同 才田
 大田 一 舞子 留
 大田 一 舞子 留
 大田 一 舞子 留

請作者 菅武太郎 虎雄
 請主 日吉 鐵業所
 請主 日吉 鐵業所
 請主 日吉 鐵業所

日吉鐵業所



田舎町農地委員会

會長 野見山由友藏

右承認ス

昭和三十三年七月二十二日

稻葉農地委員会

耕地使用承認書

一 場 所 西條郡西条町大字津並字二號二一〇八番地

二 地目、使用手段 山林及び雑木、田、雑草

三 使用目的 道路拡張敷地

右は右開明瞭上必要なる措置で土壌調査等に於て證明の上前地契約
成立しましたので御承認下され度理書の上御届ひ申します。

昭和三十三年五月 日

西條郡西条町

西白文次前

同

許作者

西白文次前

申請日 日 省 編 票 所

日吉鐵業所



田代町農地委員会
會長野見山由友藏

右承認ス

昭和二十二年七月二十二日

稻築農地委員会



耕地使用承認書

一 場所 新潟県田代町大字藤生字二葉一―。田舎地
二 地目、使用用途 畑
三 使用目的 道路擴張敷地
右は右所有者上必要なる措置で土地所有者間に於て附帯の上借地契約
成立しましたので御承認下され候速著の上御願ひ申します。
昭和廿二年五月 日

新潟県田代町大字 藤生 二葉一― 田舎地
主 大島延吉
耕作者 井子周市
高橋新田町才出

借地主 日吉 誠 業 所

日吉 誠 業 所



稻築町農地委員會

會長野見山田友殿

右承認不

昭和二十二年七月十二日

稻築農地委員會



稲葉農務第三九号

昭和二十三年六月二十四日

所記の件

稲葉農務地手書人



日古来取致

農務用目的許可申請

標記の件は六月二十四日の委員会は承認し、貴社側

より当然申請と認め、大体承認に決意致し

た。なお尚念、第一懸案地調査存在しない限り

一先手不日委員出向と致し、致す。

右出用知可下

受付	昭和二十三年六月二十四日
所長	長
印	

福岡縣町村公用

21101 佐先 口多 町 印



アラハ
取寄
全
取
取

自作農新設特別措置法
第五條第五號の指定申請書
自作農新設特別措置法第五條第五號の規定による指定方申請書

指定をうけ 上りとする 地	地	日	面積	種	自作別 小作別	耕作 者	備	考
農地の所在	台帳	現況	台帳	現況	自作	小作	任所氏名	
八八	田	田	四一歩	上	自作	小作	任所氏名	
八九ノ一	田	田	七〇五歩	上	自作	小作	任所氏名	
二〇〇	田	田	七〇七歩	上	自作	小作	任所氏名	
二〇一	田	田	二一九歩	上	自作	小作	任所氏名	
二〇三	田	田	一〇多	上	自作	小作	任所氏名	
二〇四	田	田	三〇二歩	上	自作	小作	任所氏名	
二〇五	田	田	二三多	上	自作	小作	任所氏名	

日吉 農業 所



右	同							
右	同							
細船町大字 二二三ノ 才田本谷 一ノ		田	右	開	二一八歩	同	上	右
才田本谷								同

ニ使用目的を變更しようとする理由

農園・雑用地として昭和十七年買収し現況は雑種地なり

ニ變更後の用途

貯異地、穀農園 其他丁作物の敷地（既に使用済）

可附近の状況

既に農坑坑内へ開し附近には余々耕作田なし

其其他参事事項（附近、土地、雑物配置状況、見取圖、最近三十年

に於け；此作物の作付反別收穫高、耕作者の農業經營状況等）

本指定方申請するのは開々地目變換の手續を未了のため土地台帳面

に田舎して在候あるため備念自作農割改特別措置法第五號の規定に

よす申請をす

昭和廿二年七月 日

福岡縣高橋郡船橋町大字才田

共同石炭礦業株式會社日吉礦業所

右代理人 宇佐 篤 敬

一書

船橋町

農地委員會 殿

七月十五日以下に地目変換の申請書の提出外その他の取扱いに
 畑作に専らしよるが故に畑作地として扱ふべきものと存外ナル
 のを念ふて提出せしむるに依りて自作農割改特別措置法に
 規定に依りて申請をす



一
日
吉
鑑
業
所



松原芳二三七號

昭和二十二年三月

松原芳二 農地委員会



日誌 松原芳二 田舎の生活
農地調査は 昔の生活の 許り 昔の生活の 許り
別々の 生活の 許り 昔の生活の 許り

日誌 松原芳二 田舎の生活
二 頁 二 八 分



海 家





(石炭地分事務所
農地調査員
二濃野四三)

取締役所長 明石友則

昭和三年七月八日町農地調査表第四條
申請の件左記に依り調査す。

昭和三年七月十四日

濃野四三
町農地調査員



農地 種類	地番	地目	反	利償	格	備考
本村	七六〇	畑	一三四	三三〇	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六一	畑	八〇二	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六二	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六三	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六四	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六五	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六六	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六七	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六八	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七六九	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七〇	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七一	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七二	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七三	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七四	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七五	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七六	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七七	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七八	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七七九	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
阿福	七八〇	畑	一一九	一一九	全	石炭地分事務所 農地調査員 二濃野四三
計			四五〇			



裁 許 有 限 公 司

總 店 設 於 神 戶 港 邊 大 倉 五 郎 申 請 許 可 出 資 シ マ シ タ リ ラ 新 卒 調 査 題
ノ 上 可 然 御 取 計 ヒ 方 御 照 ヒ 申 上 ゲ マ ス

西 曆 二 十 二 年 六 月 十 一 日

神 戶 縣 神 戶 市 神 戶 港 邊 町 字 才 田

改 正 ノ 後 八 分 ノ 中 心 迄 行 ン 事

吉 備 商 所

代 理 人 廣 尾 宇 佐 見 謹 一

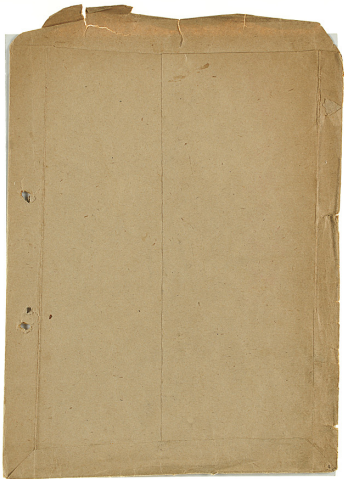


神 戶 縣 裁 許 委 員 會

會 長 野 井 山 由 友 禮

日 吉 鐵 業 所





五反田酒池下開き借地借契約について

一本契約は石炭鉱業株式持株会より表上の捨場所として
昭和八年十月三十一日契約したものである。

一該酒池は元末備置地であり表上を除く事

に於て本契約は済地に於ける酒池復旧之事を約束した

一右表上捨作業終了迄の期間該地(表上捨場)に於

ける耕作困難に對する補償として相手方が稲藁の

後場に及ばず借地料を補償すること約束した。

一本契約地を表上捨作業終了後臨時用地として

利用する場所でない相手方が耕地として使用

する事になつてゐる。

37 30 田舎子調査ニ於て

整理(五) 借地借契約ニ関

昭和 年 月 日

封號 191 192 193
 冊數 10 冊
 日期 1918 年

各種系統制生
 73
 配給所
 第一分區
 第一分區

配給所

中華民國二十四年八月四日

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路
19	18	17	16	15	14	13	12	11	
南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路	南京路 南京路 南京路 南京路 南京路 南京路



福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

共

共同石炭
株式會社

日吉鑛業所

電話(大隈局)一一番



(3)

土地賃貸借契約書

左記館築所有地の賃貸借に關し館築所有財産管理者館築
所長 西田 祥盛を甲とし共同右株株式会社 日吉鏡
業所々長 宇佐見 教一を乙として左の通り契約する。

記

一 土地の表示

嘉徳郡館築町大字平字五反田一五五番地

原野 武町巻反九畝武拾八歩

第一条 契約期間は昭和二十七年十月十日より昭和三十三年十月九日迄の五ヶ年間とする。

但し乙に於て不用の場合は何時でも返還し得るものとし尚賃貸借を繼續する場合は本契約を更新して協定するものとする。

新して協定するものとする。

貸借料金は縮築町の条例の定めるところによる
貸三條 乙は借地料金を毎年一度毎に一時に前納するものとする。但し一年未満は月割計算とする。

貸四條 甲は前記契約土地に因り公共用必要を止じた場合は契約期間中と雖も本契約を解約することのできる。この場合前納貸借料金は月割を以て返付するものとする。

貸五條 土地返還の場合には返還当時の現状のまま返還するものとする。

貸六條 契約地に関する被審に対しては乙が直接関係者に交渉するものとする。

貸七條 契約地に対する貸借料金を納入未済又は不都合の行爲があつた場合は契約期間中と雖も甲において



解約することのできる

貸八條 乙は本契約による土地を第三者に転貸又は讓渡することのできない。

右契約の證として式通を作成し甲乙合意通を保有する

昭和二十七年十月十日

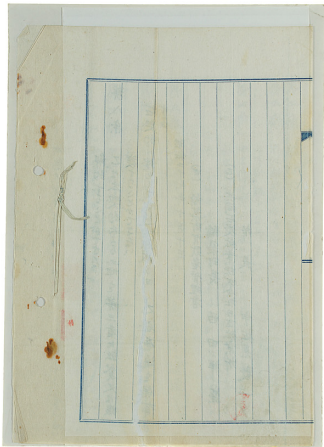
(甲) 縮築町有財産管理者

縮築町長 西田 祥 盛

(乙) 共同石炭鉱業株式会社 日吉鉱業所

所長 宇佐見 教







土地買賣借契約書

土地買受人 佐藤 忠

高橋郡御都町大字平次山谷世相澤人平山屋ヲ申トシ共同石炭鑛業株式會社ヨリ吉井洋行ヨリ乙トシ乙方昭和廿一年十二月ヨリ使用セル中ノ所有ノ土地ヲ左記條項ニ依リ買賣せラルモノナリ

記

一、土地 高橋郡御都町大字才田字邊ノ口八拾五番地ノ賣田 所有者 大山岩賣

高橋郡御都町大字才田字邊ノ口八拾五番地ノ賣田 所有者 大山岩賣



高橋郡御都町大字才田字邊ノ口八拾五番地ノ賣田 所有者 大山岩賣

一、契約期間 長期經營中

一、借地料金 暫ク年田ニ付イテ一坪；賣取戻給親 原野ニ付イテハ一坪；取治親

賣取戻給親 原野ニ付イテハ一坪；取治親

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

石井洋行 (4)

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト

一、料金支払期日 毎年十二月廿日迄年分期納メコト



加取 乙方事業經營甲ハ中ハ取地所ヲ乙ニ家給ナクシテ巨田ニ買取
 シテハ耕作スルコトヲ得ザルモノトス
 加取 乙方耕作小田ノ時ハ中ハ何時ニテモ土地引換ヲ成シ得ルモノ
 トス
 右契約ノ趣トシテ本管二番ヲ作製甲乙各費並死保有スルモノトス
 昭和廿三年十二月 日

甲 高橋仙橋新大字平

大山岩吉 相殿人

大山

乙 高橋仙橋新大字才田

井岡石炭鉱業株式會社日吉礦業所

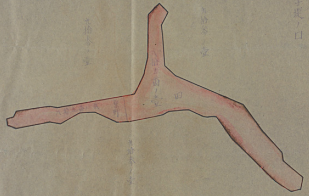
代製者 宇佐 見 殿

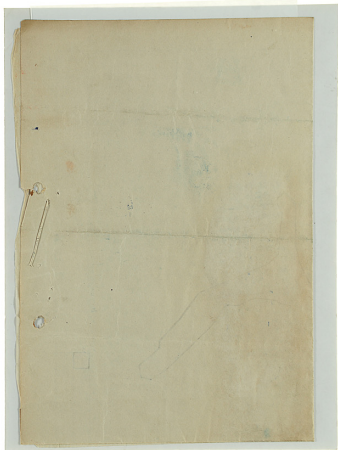


LOVE

見 洞
借地 區域

借地 圖
加取 大字 式 田 字 定 口





自動車売買契約書



昭和六年六月廿八日 日合資会社飯塚石油重松モーターズを甲とし 共同名義鈴木株式会社を乙とし
て左の左記車輛の売買に關して左の如く契約をなす
日吉銀業所

第一條 本契約の目的である車輛は左の通りである

一、車名及編號 日合資会社モーターズ
二、車台編號 日合資会社モーターズ

三、機油編號 日合資会社モーターズ

四、車輛價額 日合資会社モーターズ

第二條 乙は甲に対して前記車輛の購買代金八千圓を甲に支払ひ現金は左記諸日のうちに分割払するものとする

一、現金 日合資会社モーターズ

二、現金 日合資会社モーターズ

三、現金 日合資会社モーターズ

四、現金 日合資会社モーターズ

五、現金 日合資会社モーターズ

六、現金 日合資会社モーターズ

七、現金 日合資会社モーターズ

八、現金 日合資会社モーターズ

九、現金 日合資会社モーターズ

十、現金 日合資会社モーターズ

十一、現金 日合資会社モーターズ

十二、現金 日合資会社モーターズ

十三、現金 日合資会社モーターズ

十四、現金 日合資会社モーターズ

十五、現金 日合資会社モーターズ

十六、現金 日合資会社モーターズ

十七、現金 日合資会社モーターズ

十八、現金 日合資会社モーターズ

十九、現金 日合資会社モーターズ

二十、現金 日合資会社モーターズ

第三條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第四條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第五條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第六條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第七條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第八條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第九條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十一條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十二條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十三條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十四條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十五條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十六條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十七條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十八條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第十九條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

第二十條 乙は第二條の支払を滞りし時は按償として金百圓に付日合資会社モーターズに對して滞り金を支拂ふものとす

買主(甲)

住 所

氏 名

職 業

代表社員

重 松

普 津

將

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

印

日合資会社飯塚石油重松モーターズ
代表社員 重松 普津 將

共同名義 鈴木株式会社

連帯保証人
住 所
氏 名
連帯保証人 宇佐見 敦一

連帯保証人
住 所
氏 名

連帯保証人
住 所
氏 名

寫

売渡証書

不動産の表示

福岡県嘉穂郡嘉穂町大字牛原七五四番地の一所在

「木造草葺平家 建積（九坪）」

「売渡条件

「電灯及水道施設については此の限りにあらず。

「敷地に付いては買受人に於て地主と交渉の事。

但し坪数に關しては当館の測務を準ること。

「款目及其の他の被替を限りたりとも其の補償は一切しなす。

「買受人

福岡県嘉穂郡嘉穂町大字牛原七五四番地の一

江良 謹 啓

「売買金額

「金 参 萬 円 也

「売渡年月日

昭和三十年 八月 廿 日

右の通り売渡す。

昭和三十年 八月 廿 日

福岡県嘉穂郡嘉穂町大字才田二二六ノ一

共同石炭鉱業株式会社日吉鉱務所

取締役人 宇佐 見 敬 一

64



契約証

村長 佐々木 佐々木

嘉穂郡稲葉村大字才田區(以下甲ト稱ス)ト
共同石炭株式會社日吉炭礦(以下單ニ乙ト稱ス)ト
ノ間ニ於テ才田川ノ水使用ニ關シ契約ヲ締結スル
コト左ノ如シ

第一條 甲ハ甲ノ權利ニ屬スル才田川水利ニ付キ乙ガ
礦業用水トシテ自由ニ使用スルヲ承諾ス

第二條 其代價トシテ從末通リ乙ノ坑囪ヨリ排水スル
水ハ大部介甲區域ニ流水スルモノトス

第三條 乙ガ石水使用ニ關シ第三者等ヨリ損害債
償其他異議要スル等ノ申出デアリタルトキ
ハ乙ハ其責ニ任セス兩甲ニ於テ一切解決スベ

共同石炭株式會社日吉炭礦

キ義務ヲ負フモノトス

右確約ノ証トシテ本書ニ連リ作製シ甲乙各一通宛
保存ス

昭和十五年四月八日

甲 才田區長外代表者

區長 大山 泰 正 泰

代表 大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

大 山 徳 次 郎 泰

乙 若井石炭株式會社日吉炭礦

社長 入交 大 藏

香取 大

一五海





五月八日

洗覽書

昭和十五年五月八日製約証、如才田果川、水口糖業
用水上字使用方義持之良、素認被下支銀、感
謝、主之存實、後而前記用水使用中、每年全壹百
貳拾也、花厚賣的、評史、排之任可、其也
依而後日、局、覽書、冊、入、書也

昭和十五年五月八日

共済社 岩澤武智社

社長 入 樫 太藏



才田正衣

大山 泰正 啟





契約証

嘉穂郡祐葉村大字才田區(以下單ニ甲ト稱ス)ト
共同石炭株式會社日吉炭礦(以下單ニ乙ト稱ス)ト
ノ間ニ於テ才田川ノ水使用ニ關シ契約ヲ締結スル
コト左ノ如シ

第一條 甲ハ甲ノ權利ニ屬スル才田川水利ニ付キ乙ガ

鏡栗用水ニシテ自由ニ使用スルヲ承諾ス

第二條 其代價トシテ從末面、乙ノ坑口ヨリ排水スル

水ハ大部介甲區域ニ流水スルモノトス

第三條 乙ガ右水使用ニ關シ第三者等ヨリ損害信

償其他異議生ズ亦等ノ申出テアリタルトキ

ハ乙ハ其責ニ任セズ甲ニ於テ一切解決スベ

昭和十一年七月二十一日



キ義務ヲ負フモノトス

右確約ノ証トシテ本書ニ通テ作製シ甲乙各一通宛
保有人

昭和十五年四月八日

甲者才田区長外代表者

區長 大山 泰 正印

代表 大山 徳次 印

大山 松 平印

大木 市三 印

乙者芝罘石炭株式会社吉田廣

社長 入交 太 藏印

覚書

昭和十五年五月八日契約の証、如く才田果川、水ヲ鑿業
用水トシテ使用方義務ヲ負テ蒙恩被下其故識ニ應
謝シテ存案條而本館開水使用申當年全壹面
或給與也花厚意の。所支拂ヒ任可業也
依而後日、存、進覽書一冊差入心業也

昭和十五年五月八日

芝罘石炭株式会社

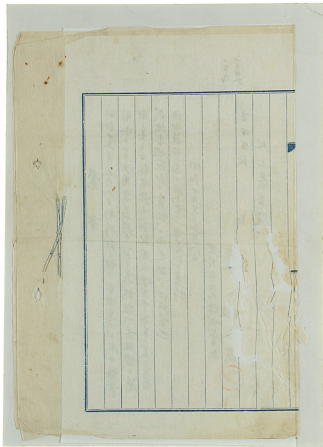
社長 入交 太 藏印

才田區長

大山 泰 正 藏

一筆
王又







日吉鉱業所を甲とし浅田英夫を乙とし、甲乙間に鉱業権施行のた
め次の契約を締結する。

記

第一條 乙はその所有に係る左に掲げる土地を甲の鉱業用地と
して使用の目的賃借契約を約す。

福岡県嘉穂郡大隈町牛隈字太郎庵一七五二番地

山林 四百四拾七坪

福岡県嘉穂郡大隈町牛隈字紙谷一七四九番地

原野 拾五坪

第二條 乙は土地の租税その他の公課を負担するものとする。

第三條 甲が乙に支払ふべき地代は一ヶ年次の通りとし、

地代山林坪当 参円貳拾銭

原野坪当 貳円五拾六銭

第四條 地代は前払ひとし、毎年十二月末日に甲の住所に於つて
支払ふものとする。

第五條 契約期間中甲は土地の転賃を乙は所有権を他に譲渡しな
しものとする。

第六條 契約期間は鉱業年間とする。

第七條 契約消滅のとき地形は消滅時の現状のまゝ乙に返還する
ものとする。

第八條 本契約と同時に今迄の契約は一切之れを無効とする。

右契約を証するため証書二冊を作り各自署名捺印し各々その一部を
保有する。

昭和二十九年九月廿一日

嘉穂郡福高町才田

甲 日吉 鉱業 所



嘉穂郡大隈町牛隈

乙 浅田 英夫

昭和二十九年十月十日
浅田英夫印



43



昭和十七年十一月十二日
12
7

一金 貳百五拾圓也

右抽替所有不熟則ヲ前記代金ヲ以テ貴殿ニ永代買渡候處
確實也就テハ指替ヘ勿論親族又ハ他人ヨリ決シテ異議等
申立ル者無之因テ爲メ後日買渡際一札知件

昭和十七年十一月十二日

高野野山田町大字下山田

買渡人 田 克 新 平 田

保野人 小 野 義 延 田

共同石炭株式會社

日吉 橋 梁 所 設

物 件 表 示

高野野山田町大字下山田幸多田八四六番地上
二瓦葺平家跡敷地権利共有家 家 積

替坪 替坪

(60232) 1111



尾字箱
尾字箱

交付期 昭和5年10月25日

横長 経理部長 庶務部長 係員



55

承 諾 書

一 今般貴社ヨリ電燈供給相受納ニ付テハ萬一法制度反等ノ理由ニテ
貴社ニ於テ損害相蒙ラレ候節ハ損害等ニ於テ其ノ損害ヲ賠償シ貴
社ニ御迷惑ヲ相掛間敷コト

二 天災事變ニ依ル損害ハ勿論事故ノ爲メ停電又ハ漏電等ニ依リ萬一
損害相蒙リ候ヘ共其害ヲ貴社ニ負ハシムルコトナク各自ニ於テ成
決シ決シテ異議申立間敷コト

三 電燈料ハ九州水力電気株式会社ノ料金ニ準ジ其ノ月分ヲ其ノ月廿
日迄ニ貴社事務所ニ納入スベキコト

四 電線取管ハ九州水力電気株式会社ニ準ジ料金納入ノコト
五 電費ハ決シテ前開敷コト高一電燈シタル場合ハ一燈ニ付金參圓也
納入スルカ又ハ所費セラルルトモ異議申立間敷コト

六 電燈料帶納ニヨリ消燈セラレ其ノ爲ニ費ムル損害ニ對シテハ貴
社ニ其責ヲ負ハシムサルコト

七 臨時修繕必要ノ場合ハ貴社ニ届出テ其ノ許可ヲ受タルコト
八 前開申込ニ依ル取付費用ハ損害ニ於テ負擔スベキコト
其後ノ修繕ハ貴社ノ負擔ノコト

右様々承諾ニ付后日ノ爲一札差入候也
昭和十五年 猶 至 五 日

大隈町日吉辰彌坊所内

永江定市
中島寅雄

共同石炭株式会社日吉辰彌

御 中

重要書箱綴



41



登記簿

石炭
共同石炭株式會社
大田上
才田

今般稻葉町大字才田上フコ捐者所有土地並ニ立木一切ヲ撤棄
用トシテ共同石炭株式會社日吉側樂所へ賣渡シ御依テ左記ノ
件双方ニ於テ登書ス

一、買受人ニ於テ撤廢終了後必要ナキ場合ニ至リタル時ハ概
先的ニ元ノ地主ニ換抄譲下ノ事

一、才田撤廢地宅ノ人名夫へ無料ニテ地主ニ提供ノ事

但シ地主へ換額ニ支拂ナキ權限ヲ取ノ事

右双方正意ヲ以テ履行シ後日ノ爲ニ通作製シ各自一箇宛保有
スルモノトス

昭和十七年十一月四日

共同石炭株式會社日吉側樂所

高都郡大隈町大字牛原

共同石炭株式會社日吉側樂所

買受人 代表者 明 石 友 助

高都郡稻葉町大字才田

賣渡人

大山 貞 老
大山 泰 市
大山 武 雄
大山 杉 平
大山 市 三郎



448 23



永訣書

貞鏡借地内。於々社者住宅敷地貳拾坪。合借地改度
願出候處特別。御詮哉。程。兼料。御借し被下候段
奉深謝候然。上光記條項正。兼理仕候條後々。為本
書一札差入候也

記

一 此地留落等鏡業。依被管。取リテ。場合決シテ異試中
出サハシト

一 借地稱、他、譲渡セザルコト

一 家屋。他、譲渡シ又、貸與セザルコト

一 家屋、若シ賣渡シテ。場合ハ。直。解産シ。移轉スコト

一 譲渡地賣渡。於々。必要相生。場合ハ。御下命。依。御

七年八月廿日

指是場所。移轉スコト

一 重大ナル過失。依、責鏡。迷惑。及ビ又。不正不法。所為
リ。場合ハ。何事。御下命。依、移轉スコト

以ニ

昭和五年七月廿日

嘉徳郡山岡町上今吉古鏡

借地人

今村幸次郎

嘉徳郡山岡町上今吉古鏡

保証人

小林 永伸 多治

共同右表株式會社古鏡
鏡業代理人 堀石友助 殿





報 誌 畫

一 今般責種ヨリ電燈供給相受候ニ就テ高一法規道及等理
 由テ貴種ニ於テ損益相家屏節ニ控者等々於テ其ノ損害ヲ
 并後シ貴種ニ御迷惑ヲ相損問敷コト

二 天然等々表ニ依ル損益ハ勿論ニ事故ノ高ノ傍電又ハ漏電等々
 概ニ高一損害相家候トモ其責ヲ貴種ニ負ハルコトナラズ
 自ニ於テ処決シ法ニ異議申立問敷コト

三 電燈弊ノ九州水力電氣株式會社ノ科金ニ準テ其月令々其ノ
 月平均ニ貴種事務所ニ納入スルコト

四 貴種取留ハ九州水力電氣株式會社ノ準ニ科金納入コト

五 並電ノ法ニ取問敷コト高一並電ノ現令ハ老燈ノ付令々月
 納入スル又消燈セルトモ異議申立問敷コト

東京電力株式會社 事務部 謹啟

六 電燈料簿紙。依「消通」其高。若敷此摺客討し八。黄
 磯。其妻。其員。ハシ。ハ。ハ。ハ。
 七 臨時燈心手。場合。其妻。南出。其許。可。交。ハ。ハ。ハ。ト
 八 燈籠。上。依。敷。其。員。同。黄。磯。於。其。担。又。ハ。ハ。ハ。ト
 恒。依。其。承。其。其。後。日。尚。一。孔。其。人。依。也。
 昭和六年一月一日

嘉茂村大分町人会中限目共の交換所目

大	大	大	大	大
大	大	大	大	大
大	大	大	大	大
大	大	大	大	大
大	大	大	大	大
大	大	大	大	大

















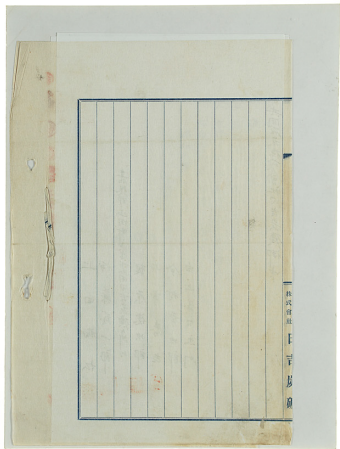





上 田 柳 松
 上 藤 成 一 初
 上 加 藤 山 田 町 上 下 山 日 吉 原 藤 州 川
 上 藤 東 藤 次 初
 上 草 春 志
 上 村 幸 次 郎
 上 出 兼 日 末 門

共同信託株式會社日吉原藤州





北沢書局
E
F
G
H





借 用 証

九州電力株式会社 御中

周波数変更工事用借用機器(資材)として下記の通り借用了しました

昭和 30 年 5 月 5 日

(No. /)

会社名 香取支社 日立営業所 責任者 宇佐見 敏一

品 名	単 位	数 量	備 考
② 挿入型油圧巻	台	✓ 6	30478架 2027025 2027150 2027254 2027357 2027453 2027557
③ 柱上挿入油圧巻	台	✓ 2	3100V 100A 30478架 20612119 20612236
④	台	✓ 1	3100V 200A 30478架 20612543
⑤ 架線線	架線	12411	202705 202710 202715 20.19.26.27.28.29 2028
⑥ 鋼策ケーブル	米	900	22.462
⑦ 210V挿入機	本	✓ 14	2028102 7台 2028190 6本
⑧ 配電函	台	✓ 2	2100V 200A 2224112 2224111

借用印をこぼし借入済のものは
30年5月5日



借 用 証

九州電力株式会社 御中

周波数変更工事借用機器(資材)として下記の通り借用了しました

昭和 30年 10月 18日

(No. 2)

会社名

福岡石炭株式会社 日吉鉱業所

責任者

宇佐見 敏一

品 名	単 位	数	備 考
54P高圧扇形機	台	2	第一機 202022Y (2機) 202024Y (1機)
24P高圧扇形機	台	2	第二機 202021Y (2機) 202022Y (1機)



借 用 証



借 用 証

九州電力株式会社 御中



周波数変更工事用借用機器(資材)として下記の通り借用しました

昭和 30 年 11 月 11 日

(No.)

借入者
福岡石炭日吉炭坑

責任者 宇佐見 敦

品 名	単 位	数	備 考	備 考
送風機	台	1	台	浜田製 型式AM-01-200-2 1030044 400V 1700W 3相200V 210P 7kg 品番 71277-7720-07517 21kg
電動機	台	1	台	三菱製 MKEV 1077942001 102002000 3相2P 200V 30kW
電磁開閉器	台	1	台	柳井社製 PA-001 100A型 10307-1300P 103020270製

